

縊死体

夢野久作

青空文庫

どこかの公園のベンチである。

眼の前には一条の噴水が、夕暮の青空高く高くあがっては落ち、あがっては落ちしている。

その噴水の音を聞きながら、私は二三枚の夕刊を拡げ散らしている。そうして、どの新聞を見ても、私が探している記事が見当たらないことがわかると、私はニツタリと冷笑しながら、ゴシヤゴシヤに重ねて押し丸めた。

私が探している記事というのは今から一箇月ばかり前、郊外の或る空家の中で、私に絞め殺された可哀相な下町娘の死体に関する報道であった。

私は、その娘と深い恋仲になっていたものであるが、或る夕方
のこと、その娘が私に会いに来た時の桃割れと振袖姿が、あんな
り美し過ぎたので、私は息苦しさに堪えられなくなって、彼女を
郊外の××踏切り附近の離れ家に連れ込んだ。そうして驚き怪し
んでいる娘を、イキナリ一思いに絞め殺して、やつと重荷を卸し
たような気持ちになったものである。万一こうでもしなかつたら、
俺はキチガイになったかも知れないぞ……と思いつながら……。

それから私は、その娘の扱帯しんぎを解いて、部屋の鴨居かもいに引っかけ
て、縊死を遂げたように装わせておいた。そうして何喰わぬ顔を
して下宿に帰ったものであるが、それ以来私は、毎日毎日、朝と
晩と二度ずつ、おきまりのようにこの公園に来て、このベンチに

腰をかけて、入口で買つて来た二三枚の朝刊や夕刊に眼を通すのが、一つの習慣になつてしまつた。

「振袖娘の縊死」

といつたような標題を予期しながら……。そうして、そんな記事がどこにも発見されない事をたしかめると、その空家の上空に当る青い青い大気の色を見上げながら、ニヤリと一つ冷笑をするのが、やはり一つの習慣のようになってしまつたのであつた。

今もそうであつた。私は二三枚の新聞紙をゴシヤゴシヤに丸めて、ベンチの下へ投げ込むと、バットを一本口に啣くわえながら、その方向の曇つた空を振り返つた。そうして例の通りの冷笑を含みながらマツチを擦すろうとしたが、その時にフト足下に落ちてゐる

一枚の新聞紙が眼に付くと、私はハツとして息を詰めた。

それはやはり同じ日付けの夕刊の社会面であったが、誰かこのベンチに腰をかけた人が棄てて行つたものらしい。そのまん中の処に掲^だしてある特種らしい三段抜きの大きな記事が、私の眼に電気のように飛び付いて来た。

空家の怪死体

××踏切附近の廃屋の中で

死後約一ヶ月を経た半骸骨

会社員らしい若い背広男

私はこの新聞記事を掴むと、夢中で公園を飛び出した。そうしてどこをどうして来たものか、××踏切り附近の思い出深い廃家の前に来て、茫然と突っ立っていた。

私はやがて、片手に掴んだままの新聞紙に気が付くと、慌てて前後を見まわした。そうして誰も通っていないのを見澄ますと、思い切つて表の扉とを開いて中に這はい入った。

空家の中は殆んど真暗であった。その中を探り探り娘の死体を吊るしておいた奥の八畳の間まへ来て、マッチを擦つて見ると……。

「……………」

……それは紛まごう方ない私の死体であった。

バンドを梁はりに引っかけて、バットを啣はえて、右手にマッチを、

左手に新聞紙を掴んで……。

私は驚きの余り気が遠くなつて来た。マツチの燃えさしを取り落しながら……これは警察当局のトリックじゃないか……といったような疑いをチラリと頭の片隅に浮かめかけたようであつたが、その瞬間に、思いもかけない私の背後うしろのクラ暗やみの中から、若い女の笑い声が聞えて来た。

それは私が絞め殺した彼女の声に相違なかつた。

「オホホホホホ……あたしの思いが、おわかりになつて……」

青空文庫情報

底本：「夢野久作全集3」ちくま文庫、筑摩書房

1992（平成4）年8月24日第1刷発行

初出：「探偵クラブ」

1933（昭和8）年1月

入力：柴田卓治

校正：しづ

2000年5月19日公開

2012年10月5日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

縊死体

夢野久作

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>